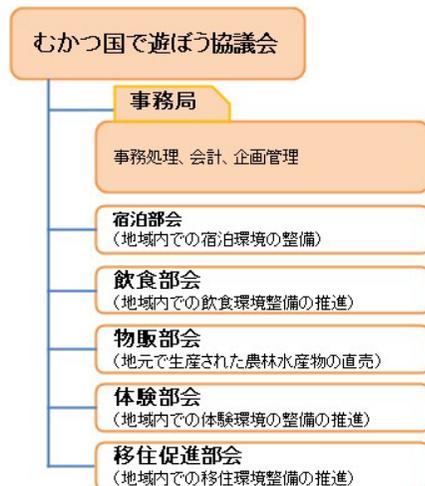


向津具地域の豊かな自然や歴史、文化を活かし、都市住民との交流を通じて地域の魅力を発信し、関係人口の増加や移住促進につなげる活動計画づくりを行い、棚田や漁業文化、楊貴妃伝説などを活用し、向津具ならではの持続可能な暮らしの実現を目指した。

## 基本情報

- 所在地：山口県長門市
- 団体名：むかつ国で遊ぼう協議会  
(協議会構成員)  
二尊院、長門市、北川昌弘 他個人4名
- 実施地域：山口県長門市 向津具地域  
基幹集落名：久津  
関係集落：田久道、白木、大和、大浦東、大浦西、油谷、南方、本郷、山崎、水岬、上野西
- 主産業：農業・林業・水産業  
(主要作物等)  
棚田米、畜産（黒毛和牛）、海士魚、マグロの養殖

## 体制図



## 取組の概要

### 対策前(課題)

①人口減少、高齢化という全国の地方と同様の課題を抱えている。②魅力ある伝統文化等を有しているながら、この資源を継続的な地域活性化に活かすことができない。③地区内の保育園は2園を統合して1園となり、小学校は1校のまま存続しているものの、中学校は廃校という状況。④このようなことから地域全体の活気が低下しており、健全な地域社会の活動維持や豊かな地域資源の維持が困難な状況となっている。⑤新型コロナウイルスの感染拡大によりインバウンド客は皆無となったが、今年に入ってからわずかであるが予約が入るようになってきた。⑥移住者も多いが上手いかず転出するものもいる。

### 対策後(効果)

①withコロナの時代でも、地域住民や地域の事業者、交流人口、関係人口といった多様な方々が安心して地域づくりに参画した。②向津具半島をいやしの地域として、交流人口、関係人口、定住人口の創出につなげた。③自然資源だけでなく文化資源も活用し、地域活性化に向けた機運を醸成した。④農山漁村の資源を活用する事業者の所得確保の機会につなげた。⑤地域住民が交流によって訪れる様々な人々との出会いによって刺激を受け、地域の魅力を再認識し、意識が向上し、そのことで地域における連帯感が生まれ、自己実現やおもてなしの心が育まれた。

将来像（要約）

- ・多様な人材による地域づくり
- ・関係人口→交流人口→定住人口
- ・地域活性化に向けた機運の醸成
- ・所得確保の機会の創出
- ・出会いによって地域の魅力を再認識し自己実現、おもてなしの心の育成

実現のために

誘客、集客プランの実施により、多くの都市住民等に来訪の機会を創出する。

- ターゲット 山口県を含む近隣の女性、ファミリー
- キーワード いやし、四季、アドベンチャー

向津具を訪れた人たちは、地域の人たちが、生き生きと楽しい向津具での生活を送っている姿を垣間見て参加したくなる。そのため内発型プランを実施する。

- キーワード 健康、コミュニティ、共有

- ・ワーキンググループ活動
- ・人材の発掘、育成
- ・モニター調査
- ・商品計画 ・広報計画
- ・スクラップ&ビルド、他

向津具地域の活動計画

# 【事業全体のプロセス】

2012年～

きっかけ

- エコツーリズム勉強会（2012～2015年度）
- 地域資源を活用した移住促進体験ツアー（2016～2017年度）
- 農山漁村振興交付金（農泊推進対策）事業の実施（2017～2020年度）
- 山口県ソーシャルビジネスコンテストに構成員および関係団体が入賞（2018年度奨励賞・2019年度準グランプリ）
- 令和2年度エコツーリズム大賞特別賞（環境大臣表彰）を関係団体が受賞（2020年度）

2021年～

## 事業開始1年目（取組実績）

- 【活動計画策定】ワークショップの開催・先進事例視察・活動計画書の作成
- 【体制構築・実証活動】受け入れ体制の整備・ワーキンググループの開催
- 【専門的スキルの活用】ポータルサイトのスパイラル制作



ワーキンググループ

2022年～

## 事業開始2年目（取組実績）

- 【体制構築・実証活動】活動計画推進委員会・ワーキンググループの開催  
農山漁村体験モニタリングツアー・イベントの実施・PR活動
- 【専門的スキルの活用】ポータルサイトのスパイラル制作



ワークショップ

2023年～

## 事業開始3年目（取組実績）

- 【体制構築・実証活動】活動計画推進委員会・プレスリリース等メディア展開の実施・効果検証・改善設計
- 【専門的スキルの活用】ポータルサイト運用の伴走支援等



実証活動（体験事業）

今後の  
展望

## 地域資源の活用方法・取り組みの方向性

○withコロナの時代でも、地域住民や地域の事業者、交流人口、関係人口といった多様な方々が安心して地域づくりに参画できる。○向津具半島をいやしの地域として、交流人口、関係人口、定住人口の創出につなげる。○自然資源だけでなく文化資源も活用し、地域活性化に向けた機運を醸成していく。○農山漁村の資源を活用する事業者の所得確保の機会につなげる。○地域住民が交流によって訪れる様々な人々との出会いによって刺激を受け、地域の魅力を再認識し、意識が向上し、そのことで地域における連帯感が生まれ、自己実現やおもてなしの心が育まれる。

人口減少  
高齢化  
地域活力の低下

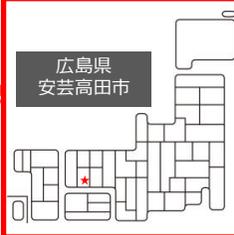
むかつ国で遊ぼう  
協議会設立

むかつく産直市こ  
こやオープン  
二尊院宿坊「えん  
とき」オープン

農山漁村振興交付  
金（活動計画策定  
事業）の活用

コミュニティカ  
フェ「equal」  
オープン

新たな体験交流拠  
点となる野外炊事  
棟を設置



農山村コミュニティの再生に向けて、地域の人材と地域外の人材とが様々な目的で出会い、相互に触発する機会を促す場を作り、そして荒廃しつつある里山整備を通じて地域外の関係人口も増やしてゆく。

基本情報

- 所在地：広島県安芸高田市
- 団体名：三矢の訓え地域協議会  
(協議会構成員)  
NPO法人 百華俱樂部、炭焼きおやじの会、山海環、安芸高田市農林水産課
- 実施地域：安芸高田市全域
- 主産業：農業、林業  
(主要作物等)  
米、野菜（ねぎ、アスパラガス、青梗菜など）、肉用牛

体制図

三矢の訓え地域協議会

事務局

吉野よう子（事務局長）  
(事務処理、会計)

安芸高田市農林水産課  
(各種情報提供)

NPO法人百華俱樂部  
(里山を活かした活動の企画、運営)

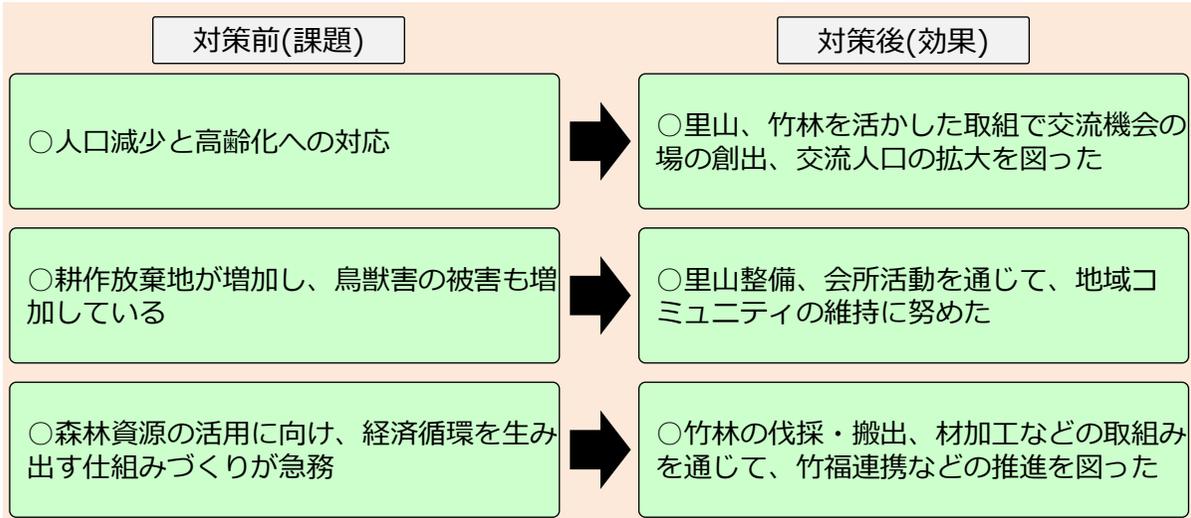
炭焼きおやじの会  
(竹林を活かした活動を展開、監査)

山海環  
(竹林を活かした活動の企画、運営)

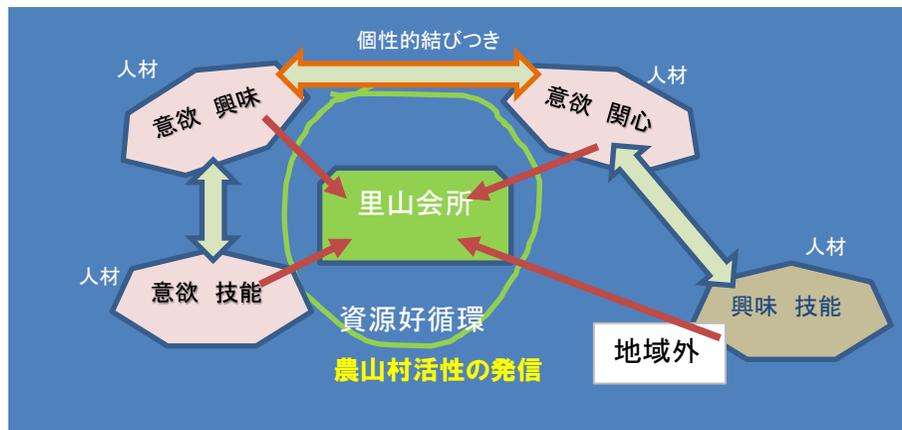
【連携団体】

- ・ 森の遊び場すくすく
- ・ 竹の駅あきたかた
- ・ (有) ピコラ
- ・ 四文会所

取組の概要



【将来像のキーワード】 里山の再生、地域人材の育成、竹、炭、SDGs



# 【事業全体のプロセス】

2000年～

人口減少、高齢化  
耕作放棄地の増加  
里山の荒廃

きっかけ

- 地域コミュニティの活力再生に向けて、地域の人材と地域外の人材が様々な目的で出会い、相互に触発する機会を促す場である「会所」の展開を目指す気運が高まった
- 荒廃した里山において、資源として竹林を活用し、経済循環をさせる活動の胎動が始まった

2021年～

農山漁村振興交付金（活動計画策定事業）の活用

## 事業開始1年目（取組実績）

- 地域の活動計画策定：ワークショップ3回実施、委員会3回実施、視察及びセミナー参加6回
- 体制構築・実証活動：里山を活かした活動（里山の整備、里山体験学習）、竹林を活かした活動（竹林の伐採・搬出、材加工など）、竹福連携の推進

2022年～

・活動計画策定  
・里山・竹林を活かした活動の実施

## 事業開始2年目（取組実績）

- 体制構築・実証活動：里山を活かした活動（里山の整備、里山体験学習）、竹林を活かした活動（竹林の伐採・搬出、材加工など）、竹福連携の推進
- 専門的スキルの活用：情報発信（FBの活用）

2023年～

竹林を活かした活動の展開

## 事業開始3年目（取組実績）

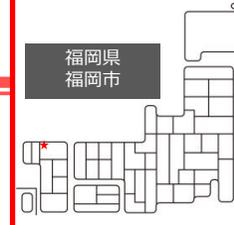
- 体制構築・実証活動：竹林を活かした活動（竹林の伐採・搬出、材加工など）、竹福連携の推進
- 〔主な目標指標〕山と海をつなぐ実証活動の継続（実績1式／計画1式）、竹林の整備（実績4回／計画4回）

今後の  
展望

## 里山と里海の資源的／人的循環の構築

- 世界的な「海洋プラスチックごみ低減」の潮流の中で、里山の資源を里海に活かし、美しく豊かな里海（瀬戸内海）を復活させる。その過程の中で地域コミュニティ、高齢者や障がい者、そして都市部からの関係人口の活躍の場を拡大させる。





漁業を基幹産業とする小呂島では、漁獲量の減少、高齢化による漁師の不足、島離れなど厳しい状況。このため、漁業を生かした加工品の開発・製造、販売促進などの新しい産業を立ち上げ。それにより所得の向上及び雇用の増大による若者の島離れを抑制し、地域の維持・活性化を図った。

## 基本情報

- 所在地：福岡県福岡市
- 団体名：小呂島しまづくり協議会  
(協議会構成員)  
小呂島自治協議会、小呂島女性部、小呂島旋網組合、福岡市漁業協同組合小呂島支所、福岡市西区地域支援課
- 実施地域：福岡市西区小呂島
- 主産業：水産業  
(主要作物等)

ブリ、タイ、ヒラメ、イサキ、アジ、イカ etc



## 取組の概要

### 対策前(課題)

- 漁獲高の減少等の悪循環による基幹産業(漁業)の衰退
- 漁業以外の新しい産業を生成する能力の不足
- 若者の島離れによる島暮らしへの不安

### 対策後(効果)

- 離島漁業の未来を創る持続可能な多角的6次産業化システムを構築し、その成果として、令和4年度、5年度と2年連続で福岡6次化商品セレクションにて受賞した。
- 「コミュニティ部会」「産業部会」「ブランド部会」がそれぞれ連携を図り、島民の島づくりへのモチベーションを高めた。
- マルシェを開催し、小呂島にゆかりのある方(親戚や先生、友達など)と島民を繋ぐ重要な行事へと定着、島外の方も多くご来場し、関係人口の増加に寄与した。

## 体制図

小呂島しまづくり協議会

会長  
島田 静雄

### 事務局

小呂島旋網組合  
(事務局及び事業運営、イベント企画)

福岡市漁協小呂島支所  
(事業運営支援、販売活動)

小呂島自治協議会  
(地域への周知、プログラム開発、イベント企画)

福岡市  
(オブザーバー、行政施策の情報提供)

NPO法人  
九州コミュニティ研究所

アイデアパートナーズ(株)

### 連携団体



令和4年度「ふくおか6次化商品セレクション」  
【福岡県主催】で審査員特別賞を受賞



福岡市内大型ショッピングモールにて  
マルシェ「小呂の魚祭り！」を開催



令和5年度「ふくおか6次化商品セレクション」  
【福岡県主催】で県議会議長賞を受賞

# 【事業全体のプロセス】

2020年～

## きっかけ

○小呂島は玄界灘に位置する離島で漁業を基幹産業としているが、漁獲量・漁獲高の減少、島離れ、高齢化による漁師の不足など厳しい状況。こうした状況を乗り切るために、離島漁業の未来を創る持続可能な多角的6次産業化システムを構築し、所得の向上及び雇用の増大を実現するために、取組を行うことになった。



福岡市最西端に浮かぶ小呂島

2021年～

## 事業開始1年目（取組実績）

- 「しま文化ワークショップ」により島民の意向を把握し、これに基づく活動計画を策定した。
- しま文化セミナー、商品開発セミナーを開催し、島民参加の島づくりと具体的な取組を示すとともに、WEBサイトの開設やネットアンケート、マルシェ開催等情報発信等に取り組んだ。



「しま文化ワークショップ」

2022年～

## 事業開始2年目（取組実績）

- 連携団体の専門家とともに、策定した活動計画に基づく事業戦略の検討を行うとともに、事業推進の協力者を島民アンケートにより把握・リストを作成した。
- 島内での交流拠点の確保を図るとともに、開発した加工品を小呂島フェアやWEBサイトで販売、併せて情報発信を行った。



WEBサイト開設（加工品紹介）

2023年～

## 事業開始3年目（取組実績）

- 民泊や食堂の開設に向け、島に来場者を呼び込むための取組を小呂島体験ツアーを通じて、実施した。
- 昨年までに取り組んだ商品の認知度向上や販路拡大と並行して、商品開発セミナーを実施し、民泊・食堂の運用開始に向けたオペレーション等の確認を実施した。



商品開発セミナー

今後の  
展望

## 『小呂島（離島）だからできる「新しい漁業」の姿』

- 離島の「新しい漁業」の概念の構築として、売れる6次化商品の更なる販路拡大や顧客獲得へ向けた取り組みを今後も継続して実施していく。さらに旋網漁による漁獲量の拡大へ向けた取り組みも実施していく。
- 持続可能なコミュニティシステムの構築として、地域おこし協力隊と協働したイベントの企画・運営、観光拠点施設の整備などを通じて、更なる交流人口の拡大を狙っていく。

基幹産業である漁業の衰退、島離れ、高齢化、若者の島離れ

農山漁村振興交付金（地域活性化対策）事業の活用

地域おこし協力隊の加入（福岡市）